

熊本県廃棄物処理計画における次期目標値設定の考え方について（案）

1 前提

- (1) 廃棄物処理法の規定に基づき、「廃棄物の減量その他その適正な処理に関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るための基本的な方針」（以下「国の基本方針」という。）に即して設定を行う。

表 1 国の基本方針に示された目標

	一般廃棄物	産業廃棄物
排出量	平成 24 年度に対し平成 32 年度において約 <u>12%削減</u>	平成 24 年度に対し平成 32 年度において <u>増加を約 3%に抑制</u>
再生利用率	平成 24 年度の約 21%から平成 32 年度において約 <u>27%に増加</u>	平成 24 年度の約 55%から平成 32 年度において約 <u>56%に増加</u>
最終処分量	平成 24 年度に対し平成 32 年度において約 <u>14%削減</u>	平成 24 年度に対し平成 32 年度において約 <u>1%削減</u>

- (2) これまで（特に過去 5 年間）の推移を考慮し、国の基本方針に示された目標を上回る目標が設定できるか検討のうえ本県の目標を設定することとした。

- (3) なお、産業廃棄物については、現在の熊本県廃棄物処理計画の目標値設定の考え方を引き継ぐこととし、①排出量が多いものの排出抑制が困難である動物のふん尿、②廃棄物分野からの施策が講じにくい火力発電所のばいじんを控除した産業廃棄物の目標値も併せて設定することとした。

また、平成 32 年度における動物のふん尿及び火力発電所のばいじんは、将来推計の値で推移すると設定したうえで、動物のふん尿及び火力発電所のばいじん以外の産業廃棄物で全体の目標が達成できるように目標値を設定することとした。

2 一般廃棄物の目標値

- 県内一般廃棄物の排出量、再生利用率、最終処分量の実績値（平成 25 年度）は、それぞれ 565 千トン、19.7%、57 千トンであり、平成 25 年度時点において排出量は、現行目標値（平成 27 年度）を概ね達成しているが、再生利用率及び最終処分量はまだ達成していない状況である（表 2）。

- また、平成 25 年度時点の実績と平成 20 年度時点の実績を比較すると、排出量は 6.1%減、再生利用率は 3.3 ポイント増、最終処分量は 19.7%減という状況である。
- 県内一般廃棄物の次期目標値は、基本方針の目標の考え方をそのまま採用することとし、排出量は、実績値（平成 25 年度）から 12%削減し 497 千トン、再生利用率は、基本方針の目標である 27%とし、最終処分量は、実績値から 14%削減し 49 千トンとする（表 3）。

表 2 県内一般廃棄物の現状

	実績値（平成 25 年度）	現行目標値（平成 27 年度）
排出量	565 千トン （平成 20 年度実績比で 6.1%減）	572 千トン （平成 19 年度実績比で約 5%削減）
再生利用率	19.7% （平成 20 年度実績比 3.3 ポイント増）	25.0% （平成 19 年度実績比 5 ポイント増加） （H19:20%→H27:25%）
最終処分量	57 千トン （平成 20 年度実績比 19.7%減）	53 千トン （平成 19 年度実績比約 22%削減）

注：「現行目標値（平成 27 年度）」欄の（ ）内は、平成 22 年告示の国の基本方針の目標。

表 3 県内一般廃棄物の将来推計と次期目標値

	将来推計（平成 32 年度）	次期目標値（平成 32 年度）
排出量	534 千トン （平成 25 年度実績比で 5.5%減）	497 千トン （平成 25 年度実績比で 12%削減）
再生利用率	20.7% （平成 25 年度実績比 1.0 ポイント増）	27% （平成 25 年度実績比 5.3 ポイント増加）
最終処分量	54 千トン （平成 25 年度実績比 5.3%減）	49 千トン （平成 25 年度実績比 14%削減）

3 産業廃棄物の目標値

(1) 動物のふん尿及び火力発電所のばいじんを含む産業廃棄物の目標値（国の基本方針に即した場合）

- 県内産業廃棄物（動物のふん尿及び火力発電所のばいじんを含む）の排出量、再生利用率、最終処分量の実績値（平成 25 年度）は、それぞれ 7,114 千トン、52%、178 千トンであり、平成 25 年度時点において排出量及び再生利用率は、現行目標値（平成 27 年度）を概ね達成しているが、最終処分量はま

だ達成していない状況である（表4）。

- また、平成25年度時点の実績と平成20年度時点の実績を比較すると、排出量は0.4%減、再生利用率は同じ、最終処分量は1.7%増という状況である。
- 第4章の将来推計（平成32年度）では、排出量、再生利用率、最終処分量は、それぞれ7,083千トン、52%、177千トンと算出している（表5）。国の基本方針に即した場合の目標値は、次のとおりとなる。
 - ・排出量：基本方針の目標は「増加を3%に抑制する」としているが、本県の将来推計では排出量は減少すると見込んでいるため、将来推計の数値を目標値となる。
 - ・再生利用率：基本方針の目標は「約56%」であるため、本県においても56%となる。
 - ・最終処分量：基本方針の目標は「約1%削減」であるため、本県においても1%削減を目標とすることとなる。

表4 県内産業廃棄物（動物のふん尿及び火力発電所のばいじん含む）の現状

	実績値（平成25年度）	現行目標値（平成27年度）
排出量	7,114千トン （平成20年度実績比で0.4%減）	7,120千トン （平成19年度実績比で増加を約1%に抑制）
再生利用率	52% （平成20年度実績比±0ポイント）	53% （平成19年度実績比1ポイント増加） （H19:52%→H27:53%）
最終処分量	178千トン （平成20年度実績比1.7%増）	141千トン （平成19年度実績比約12%削減）

注：「現行目標値（平成27年度）」欄の（ ）内は、平成22年告示の国の基本方針の目標。

表5 県内産業廃棄物（動物のふん尿及び火力発電所のばいじん含む）の将来推計と国の基本方針に即した場合の目標値

	将来推計（平成32年度）	国の基本方針に即した場合の目標値（平成32年度）
排出量	7,083千トン （平成25年度実績比で0.4%減）	7,083千トン （平成25年度実績比で0.4%減）
再生利用率	52% （平成25年度実績比±0ポイント）	56% （平成25年度実績比4ポイント増加）
最終処分量	177千トン （平成25年度実績比0.6%減）	175千トン （平成25年度実績比1.7%減）

(2) 動物のふん尿及び火力発電所のばいじんを控除した産業廃棄物の目標値

- 県内産業廃棄物（動物のふん尿及び火力発電所のばいじんを控除）の排出量、再生利用率、最終処分量の実績値（平成 25 年度）は、それぞれ 3,807 千トン、48%、109 千トンであり、平成 25 年度時点において排出量及び再生利用率は、現行目標値（平成 27 年度）を概ね達成しているが、最終処分量はまだ達成していない状況である（表 6）。
- また、平成 25 年度時点における実績と平成 20 年度時点における実績を比較すると、排出量は 0.7%減、再生利用率は 1 ポイント増、最終処分量は 11.4%減という状況である。
- 動物のふん尿及び火力発電所のばいじんを控除した産業廃棄物の次期目標値は次のとおりとする（表 7）。
 - ・排出量：県内産業廃棄物全体の目標値が、将来推計の数値で目標を達成できるため、動物のふん尿及び火力発電所のばいじんを控除した将来推計の数値を目標値とする。
 - ・再生利用率：動物のふん尿及び火力発電所のばいじんのみの再生利用率の将来推計は 57%、再生利用量は 1,883 千トンであるため、県内産業廃棄物全体の目標値「56%」を満たすためには、動物のふん尿及び火力発電所のばいじんを控除した産業廃棄物の再生利用量 2,083 千トンとなる。これは、再生利用率では 55%となる。
 - ・最終処分量：動物のふん尿及び火力発電所のばいじんのみの最終処分量は 69 千トンであるため、県内産業廃棄物全体の目標値「175 千トン」を満たすためには、動物のふん尿及び火力発電所のばいじんを控除した産業廃棄物の最終処分量は、107 千トン（平成 25 年度実績から約 2%減）となる。

ただし、最終処分量については、過去 5 年間に於いて 11.4%減という状況であり、今後 5 年間に於いても 10%削減することを目指し、98 千トン（平成 25 年度実績から約 10%減）を目標値とする。

この場合、動物のふん尿及び火力発電所のばいじんを含む産業廃棄物全体の目標値は、167 千トンとなる。

表6 県内産業廃棄物（動物のふん尿及び火力発電所のばいじんを控除）の現状

	実績値（平成25年度）	現行目標値（平成27年度）
排出量	3,807千トン （平成20年度実績比で0.7%減）	3,815千トン
再生利用率	48% （平成20年度実績比1ポイント増）	48%
最終処分量	109千トン （平成20年度実績比11.4%減）	94千トン

表7 県内産業廃棄物の将来推計と次期目標値

上段：動物のふん尿及び火力発電所のばいじんのみのみ

下段：動物のふん尿及び火力発電所のばいじんを控除した産業廃棄物

	実績値 （平成25年度）	将来推計 （平成32年度）	次期目標値 （平成32年度）
排出量	3,307千トン （平成20年度実績比 0.03%増）	3,292千トン （平成25年度実績比 0.5%減）	(3,292千トン)
	3,807千トン （平成20年度実績比 0.7%減）	3,792千トン （平成25年度実績比 0.4%減）	3,792千トン （平成25年度実績比 0.4%削減）
再生利用率	57% （平成20年度実績比 2ポイント減）	57% （平成25年度実績比 ±0ポイント）	(57%)
	48% （平成20年度実績比 1ポイント増）	47% （平成25年度実績比 1ポイント減）	55% （平成25年度実績比 7ポイント増）
最終処分量	67千トン （平成20年度実績比 29%増）	69千トン （平成25年度実績比 3%増）	(69千トン)
	109千トン （平成20年度実績比 11%減）	108千トン （平成25年度実績比 1%減）	98千トン （平成25年度実績比 10.1%削減）

○ 以上より産業廃棄物における本県の目標値を整理すると次のとおりとなる。

表 8 県内産業廃棄物の次期目標値

	産業廃棄物（動物のふん尿及び 火力発電所のばいじんを含む） （平成 32 年度）	産業廃棄物（動物のふん尿及び 火力発電所のばいじんを控除） （平成 32 年度）
排出量	7,083 千トン （平成 25 年度実績比で 0.4%削減）	3,792 千トン （平成 25 年度実績比で 0.4%削減）
再生利用率	56% （平成 25 年度実績比 4 ポイント増加）	55% （平成 25 年度実績比 7 ポイント増加）
最終処分量	167 千トン （平成 25 年度実績比で 6.2%削減）	98 千トン （平成 25 年度実績比で 10.1%削減）